

ご意見ご記入用シート

委員名：稲垣 隆司

修正意見等

1 資料の修正意見

・ 13ページの表について、それぞれの間伐状況に応じた空間線量率の増減率が記載されており、欄外には「定性・列状間伐」はスギ人工林、「皆伐」はアカマツ広葉樹混交林と記載されているものの、被爆した時点の枝葉の状況が異なるものを同一の表に記載することは、「定性・列状間伐」でも「皆伐」でも差が無いようにとられるおそれがある。

表の上段のコメントでも、そのように記載されている。したがって、この記述は誤解の生じないように丁寧に記述すべきと考える。

・ 11ページ下から3行目に「……、実施が困難と思われる。」という記述があるが、「適切な手段とは言い難い。」というような表現に修正してはいかがか。

(理由) 指摘箇所の上段に「落葉等の除去は、樹木の育成への悪影響が懸念されるとともに、斜面の森林において実施した場合、土壌が露出して降雨により土壌が流出するおそれがある……」という記述があるが、ご指摘のとおりである。しかし、「落葉等の除去」の場所によっては、除染効果が若干低下するかもしれないが、土壌が露出するほど落葉等を除去しない方法を採用できる箇所も、今後、地元との調整の結果、生じることも考えられるので、「実施は困難」という表現は修正した方が良いと考える。

(上述のような「土壌が露出するほど落葉等を除去しない方法」は今後とも考えられないのか、専門の先生方のご意見を伺いたい。)

2 その他意見

・ 21ページの下から7行目に「……、採算性が見込める場合……」という記述があるが、一般の事業を実施する場合、「採算性」ということは最も重要な要件である。しかし、今回のような緊急を要する場合には、ある程度採算性が見込めなくても、発電に必要な量、質等集材性があれば、実施すべきと考える。

ご意見ご記入用シート

委員名：大迫 政浩

修正ご意見等

(修正箇所 1) 「1.はじめに」の1ページ 最終段落から2ページにかけて

(修正案) 削除しても良いのではないかと。「地元の気持ちを受け止めた上で」という部分は適切な表現にすれば残しても良い。

(修正理由) 地元関係者のヒアリングについて記述され、委員各位が「地元の気持ちを受け止めた上で、とりまとめたものである。」とあるが、「気持ちを受け止める」という部分の情趣的な表現は適切でない。また、その後続く段落も、繋がりが悪く、「はじめに」の記載内容としては無くても支障ない(「8.おわりに」で同様の記載内容がある)。

地元ヒアリングを踏まえて今後の在り方として付け加えられた部分は、「森林施業と放射性物質対策を組み合わせた方策」であり、これは地元の気持ちを受け止めたというよりは、「地元の森林施業の維持、再生に関する要望等の意見を踏まえた」産業再生と除染の両立という施策の重要性を検討委員会が総合的な視点から客観性をもって指摘したものであるといえる。

(修正箇所 2) 16 ページ 「4.森林の除染のあり方」の四角囲み部分

(修正案) 解説部分にあるエリアA、B、Cの整理で記載したほうが分かりやすい

(修正理由) わかりやすさの観点から

(修正箇所 3) 21 ページ 「6.バイオマス発電」

(修正案) タイトルを「森林除染に伴う廃棄物等の処理とバイオマス発電」に変更

(修正理由) 森林除染を進める上では、生じる廃棄物等の処理について出口確保が重要課題である。有機物に関する仮置き場での保管は、管理が大変難しく、早期の減容化による処理が不可欠である。仮置き場の環境保全にも大変有効である。バイオマス発電のみをキーワードとして強調するのではなく、廃棄物等の問題としてまずはしっかり地に足を付けた議論が必要。その上で、将来の地元の産業再生のためにも、バイオマス発電により再生可能エネルギーとして利用を図ることを目指していく、というスタンスが重要ではないか。

なお、タイトルを変更した場合は、廃棄物等の処理に関する記載内容をもう少し追加してもよい。

ご意見ご記入用シート

委員名：崎田裕子

修正ご意見等

(修正箇所) 20 ページ 下から 2 行目

(修正箇所) 方策について、検討して・・・

(修正案) 方策について、**関係する予算の一体的な運用方法などを含めて**、検討して・・・

(修正理由) 森林施業と放射性物質対策を組み合わせるには、除染と復興予算の一体的な運用が必要になり、その柔軟な運用が可能になるかが実現のポイントとなるため。

(修正箇所) 21 ページ 12 行目

(修正箇所) 現在検討されている

(修正案) 現在、**福島県が中心となって**検討されている

(修正理由) が設置する検討会の報告に、県が検討中の内容を入れていることを明確にするため。

(修正箇所) 21 ページ 18 行目

(修正箇所) 課題となるため、可能な範囲で

(修正案) 課題となるため、**圧縮などの減容化だけでなく**、可能な範囲で

(修正理由) 除染現場ではすでに草木など除染廃棄物の減容化が重要課題となっており、圧縮などの減容化の工夫が進んでおり、現状に即して標記したほうがわかりやすいため。

(修正箇所) 22 ページ 5 行目

(修正箇所) その影響と安全性、流出。

(修正案) その影響、流出(**安全性を削除**)

(修正理由) 安全かどうかは、押し付けるのではないため。

(修正箇所) 22 ページ 6 行目

(修正箇所) 知見に関して適切な説明を行い

(修正案) 知見に関して**適切な理解を深め**

(修正理由) リスコミは説明ではなく多様な理解活動すべてを含んでいるので。

(修正箇所) 22 ページ 9 行目

(修正箇所) 関係者にわかりやすく説明、紹介

(修正案) 関係者にわかりやすく**伝え**、紹介

(修正理由) リスコミは説明だけでなく、多様な理解活動を含んでいるので。

ご意見ご記入用シート

委員名：林 誠二

修正意見等

エリア C に区分される森林への対応に関する意見

森林管理の不備によって現時点で下層植生が衰退し、大規模な土砂流出が生じている、あるいは今後生じる可能性がある地域や、今後間伐を積極的に行わないことによって、中長期的に荒廃が進行し、それによって大規模な降雨により著しい土砂流出が生じる可能性のある地域を把握することは、研究ベースではなく、行政ベースで速やかに行うことが必須と考えます。

特に、現時点で顕著な土砂流出が生じている可能性の高い地域の把握と、それら地域への営林的ないしは土木的対策は急務ではないでしょうか。

具体的には、現状で整備されている森林データ（例えば、福島県森林 GIS データ）や高空間解像度データと既存の技術を用いた解析（高解像度衛星データを用いた植生判読やレーザープロファイルデータを用いた地形解析、樹木の混み具合推定、下層植生の発達状況の定量化）によって、上記地域は相当の精度を持って特定できると考えます。

ご意見ご記入用シート

委員名：古田定昭

修正ご意見等

(修正箇所) 11 ページ 6 行目以降に修正案の文章を追記

(修正箇所) 作業者の被ばくについても言及すべき。

(修正案) また、除染に伴う作業者の被ばくについても事前評価やその低減方策についても検討する必要がある。

(修正理由) 除染作業者の被ばくについて一切触れられていないため。

ご意見ご記入用シート

委員名：細見正明

修正ご意見等

【記載例】

基本的には、地元関係者へのヒアリング結果も踏まえた原案通りで結構です。

ただし、森林除染に関しては、調査研究データが不足しており、除染技術の実証やその効果確認や森林内における放射性物質の循環挙動などに関する早急の調査・研究を進めていく必要があります。

例えば、10p 絵時の最後の段落について、下線部の項目を付け加えていただければ幸いです。

「いずれにせよ、……例えば、流域からの放射性物質の流出実態などについて、特に豪雨時の流出挙動、森林土壌中の地下浸透過程に関するデータや福島県内でのデータが十分でないなど、……必要である。」

ご意見ご記入用シート

委員名：森 久起

(修正箇所) 2 ページ下 3 行目 (修正箇所) 5mSv(0.99 μ Sv/h 相当)

(修正案) 0.99 μ Sv/h (以下同様)

(修正理由) 森林内は居住区でないので、居住区に対する計算式を用いた数値は不適切
森林作業従事者の被ばく評価は 8 時間/日×5 日/週×52 週/年 (おおよそ 2mSv/年) で行うべきで
あり、雨天、降雪など作業不可能時間を考えると実際の被ばく線量はより低くなると考えられ
る。また、森林作業従事者の放射線管理を除染電離則に従って行うことも必要である。

(修正箇所) 5 ページ 12 行目 (修正箇所) 辺材及び心材は低い値となっている。

(修正案) 辺材及び心材は低い値となっているが、地域によっては高い数値を示している所
もあり、今後、調査確認を継続する必要がある。

(修正理由) 前回検討会において遠藤川内村長から提出された資料によれば、一部高い数値が
確認されているため。

(修正箇所) 10 ページ下 1 行目 (修正箇所) 森林外への・・・明らかにしていく必要がある。

(修正案・追加) 必要がある。また、森林隣接地域(里山等)において森林からの流出により放
射性セシウム汚染が生じうる地域には流出防止策を施す必要がある。

(修正理由) マクロ的には報告書に記載のとおりであるが、ミクロ的な汚染拡大に可能性があ
る場合には某ご措置を施す必要がある。除染関係ガイドラインにおいても流出防止策が記載さ
れている。

(修正箇所) 10 ページ下 1～2 行目

(修正箇所) 森林外への・・・明らかにしていく必要がある。

(修正案) 森林外への・・・2年以内に明らかにしていく必要がある。

(修正理由) 期限を決めたプロジェクト型の調査研究を進める必要がある。

(修正箇所) 11 ページ 14 行目、14 ページ 3 行目

(修正箇所) 十分とは言えず、引き続き知見を集積して・・・

(修正案) 十分とは言えず、引き続き、国・自治体・研究機関が連携して、知見を集積して・・・

(修正理由) 環境省、農水省 (林野庁)、自治体 (福島県) の連携が必要不可欠である。

(修正箇所) 22 ページ下 1 行目

(修正箇所) 検討されることが期待される。

(修正案) 検討を進める。

(修正理由)

検討する責任箇所は環境省であり、環境省の報告書において、「期待される。」では国民の
納得が得られない。

ご意見ご記入用シート

委員名：森口祐一

修正意見等

(修正箇所) 2 ページ 5~6 行目 (修正箇所) その後、除染の進捗状況や結果について定期的

(修正案) 除染を進め、~~その後、同時に、~~除染の進捗状況や結果について定期的

(修正理由) 25 年度末の除染の結果を待たずに、随時点検、見直しを行うべきである。

(修正箇所) 2 ページ 17~18 行目、6 ページ 6 行目、7 頁 1 行目、7 頁 11 行目

(修正箇所) 0.3%、0.058%、1%程度等の定量的表現 (修正案) 定量的数値を削除

(修正理由) 検出下限の制約のため溶存態の考慮が不十分で、定量的根拠が不十分

(修正箇所) 5 ページ 18 行目以降 (修正箇所) 放射性物質は溶出してきていない。

(修正案) 放射性物質は多くの場合、検出下限値以下である。溶出してきていない

(修正理由) 環境省の検出下限値が 1Bq/L と高く、溶出していないとは断定できない。

(修正箇所) 11 ページ 6 行目 (修正箇所) 林縁から 20m の範囲を目安に

(修正案) 林縁から 20m の範囲を目安にとしつつも、地形による影響等を十分考慮して必要に応じて範囲を広げたいうえで、(修正理由) 谷あいの斜面等では 20m では十分な効果が得られにくく、地形に応じた対応を行うべきである。

(修正箇所) 14 ページ下から 2 行目 (修正箇所) 処理・処分先等の確保にも留意する必要

(修正案) 排ガスの安全性への懸念への対処、施設周辺の関係者との対話について追記。

(修正理由) 放射性物質を含む廃棄物等の焼却に対して反対論があることに留意すべき。

(修正箇所) 17 頁 11 行~ (修正箇所) 段落全体 (修正案) 全面削除

(修正理由) 法に書かれていることであり、再掲して被災者の感情を逆撫でする必要はない。

(修正箇所) 18 頁~21 頁冒頭 (修正箇所) エリアごとの対応方針

(修正案・修正理由) 上記の指摘事項を踏まえて対応する箇所を修正いただきたい。

(修正箇所) 22 頁 7.リスクコミュニケーション (修正案) 7. 除染方針に関する合意形成

(修正理由) 一方的な説明では不十分であり、双方向の対話、協議が必要

(修正箇所) 22 頁末尾 (修正箇所) 早期に森林の対応方針が検討されることが期待される。

(修正案) 「早期に森林の対応方針を検討することを強く要請する。」もしくは「早期に森林の対応方針の検討を〇〇が責任を持って進めていく。」

(修正理由) 文章の主語が不明確であり、責任の所在が不明確である。